

【指定就労継続支援A型事業所 経営改善計画書】

事業所名称	障がい者就労継続支援A型事業所ワンルーチ			代表者指名	長島 さとみ
事業所所在地	〒411-0846 三島市栄町2-26				
経営改善計画書を公表するホームページ		http://nijinokakehashi.org/wanluce			
連絡先	電話番号	055(941)8278		FAX番号	055(957)3887
職員数	8	定員	20	利用者数	23 (うち身体 3 知的 14 精神 6 その他)
事業所の設置主体	社会福祉法人 ・ 民間企業 ・ NPO法			その他	設立年月日 平成26年4月1日
改善計画期間	平成29年 4月 1日 ~ 平成30年 3月31日 (1年間とすること)				

1 現在、指定基準第192条第2項を満たすことができない理由と具体的改善策
(詳細かつ具体的に記載すること)

(未達成理由) ①収益性のある作業の確立ができていない。②利用者さんの作業能力が不十分③利益の上がらない作業を実施している。④設備投資ができていない。	(具体的改善策) ①作業の見直し、収益性のある作業を整理し実施。②スタッフの増員③新たな作業を行う体制と設備投資④利用者さん個々の作業スキルの向上⑤工賃向上などへ向けて利用者さんや職員の意識の向上の為の研修⑥他機関との連携強化等
-----------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 現在の事業内容及び計画期間を通じて実施する事業内容

現在の事業内容	計画期間を通じて実施する事業内容
外部受注作業・食品の加工作業	外部受注作業・食品加工作業・農福連係作業受託・野菜の販売・野菜の加工・堆肥等の新たな商品作り

(※) 事業内容には、生産活動の内容、対象顧客、市場動向、競合相手の動向、改善後の事業内容に主に従事する者の数や属性（どのような資格、経験等を持った者が担当するか等）について詳細に記載すること

3 現在の生産活動に係る事業の収入額及び計画期間を通じて達成する事業収入目標額（1年間の額を記載）

現在の収入額	計画期間を通じて達成すべき目標収入額
16,659,066円	21,000,000円
(主な費目) 外部受注作業・食品の加工作業	(積算根拠) 農福連係作業受託・野菜の販売や加工・堆肥等の新たな商品作りを行い月150,000円の収益のアップを図る。23人(平均利用者数) × 4.5(平均労働時間) × 807円(最低賃金額) × 20平均利用日数 × 12か月

(注)目標収入額は、「平均利用者数 × 平均労働時間 × 最低賃金額 × 平均利用日数 × 12か月」以上の額でなければならない。

4 現在の生産活動に伴う経費及び計画期間を通じて達成する必要経費の見込額（1年間の経費を記載）

現在の経費	計画期間を通じて見込まれる経費
708,452円	800,000円
(主な費目) 食品	(積算根拠) 食品の加工に野菜を加工して商品化する材料を購入、また、野菜などの種を購入する為。

5 生産活動に係る事業の収入ー生産活動に伴う必要経費

現在の「収入ー経費」	計画期間後の「収入ー経費」
15,950,614円	20,200,000円

6 現在の利用者の総賃金額及び計画期間後の利用者の総賃金額

現在の支払い総賃金額	計画期間後の支払い総賃金額
16,659,066円	20,200,000円
(積算根拠) 全員に最低賃金807円を支している。また、雇用保険の税印加入。一部交通費の等の支払いを行っています。	(積算根拠) 収益を上げて今まで問う同様の賃金支払いと収益を上げることで賞与等の支払いを行う。

特定非営利活動法人にじのかけ橋
事業所代表者署名欄 理事長 鈴木俊昭 印

※「現在」はいずれも、指定基準192条第2項を満たさないと判断された前年度1年間のものを記載すること。
※その他、社会福祉法人会計基準に基づく会計書類等、地方公共団体が必要と認める書類を添付せること。

捨てられる骨、頭を肥料に活用

「うなぎ野菜」

三島の名産に

三島名物のウナギの捨てられている骨や頭を肥料として活用し、障害者が野菜を栽培する新たな取り組みを、障害者就労継続支援事業所を運営する三島市北田町のNPO法人「にじのかけ橋」が始める。「うなぎ野菜」と銘打つてブランド化を進め、障害者の賃金の向上や遊休農地の有効利用を目指す。

(佐久間博康)

市内の料理店でつくる「三島の名産に肥を活用してサツマイモやジャガイモなどを栽培する。

島うなぎ横町町内会」から提供を受けたウナギの残りかすを施設の機械で発酵させて肥料にし、函南町丹那の「酪農王国オラッヂェ」で牛ふんに混ぜて堆肥にする。遊休農地だった三島市玉沢、谷田の両地区の農地二カ所計一千五百平方㍍で、施設利用者らが堆肥作りや農作業を担当する。一人当たり月額一万四千円程度

にとどまる「アルシオン」利用者の賃金を「うなぎ野菜」の効果で三万円に引き上げるのが目標だ。ウナギの残りかすを肥料にしてサツマイモを育てる浜松市のブランド野菜「うなぎいも」の取り組みを参考にした。

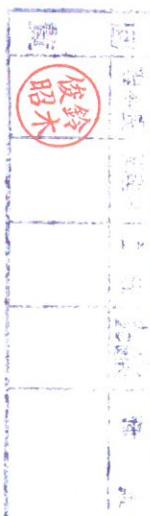
野菜の栽培は玉沢地区の農地で四月末、谷田地区の農地で五月中旬にそれぞれ始まった。六月は施設の利用者や職員、ボランティアらが協力して種まきや水やりをしていく。

野菜の栽培は玉沢地区の農地で四月末、谷田地区の農地で五月月中旬にそれぞれ始まった。六月は施設の利用者や職員、ボランティアらが協力して種まきや水やりをしていく。

「うなぎ野菜」の栽培に向け野菜のたねをまく施設利用者ら=三島市谷田で



受
29.6.26
付



本年度は試験的に、サツマイモ、ジャガイモのほかに、ダイコン、ブロッコリー、ニンジン、トウモロコシといつたさまざまな野菜の栽培に挑戦する。野菜の収穫量は計九百キロ、販売額は計五十万円を目指している。



二〇一八年度以降は栽培に適した野菜の絞り込みや、スイーツをはじめ加工品の開発を行う。「うなぎ野菜」の試みが成功すれば、他の障害者就労継続支援事業所にもノウハウを提供し普及につなげるつもりだ。

アルシオン職員で農福事業担当の鈴木涼太さん(二四)は「野菜と堆肥のブランド化により、利用者が生き生きと働けて、より高い賃金を得られる環境をつくりたい」と意気込む。

アルシオン利用者の山下貴志さん(三七)は「おいしい野菜ができるといいな。賃金もアップしたらうれしい」と笑顔を見せる。

NPOが取り組み 障害者が栽培、賃金向上へ

